



TUNEO FUJII

藤井 常雄

株式会社 三共合金鑄造所 製造部技能長

2017年度大阪
テクノマスター
OSAKA TECHNO MASTER

鑄物って、奥が深い!

「鑄造」「鑄物」「鑄型」...

木型などの模型をつくり、その模型を元に砂などで「鑄型」を造型し、鑄型に溶けた金属を流し入れ、「鑄物」が完成する。これが「鑄造」だ。その鑄造工程において、溶けた金属をどこからどのような経路で流し込めば、ムラや欠陥のない鑄物が仕上がるかを考えること（「鑄造方案」）が、最も重要とされている。藤井氏の、長年の経験で培われた「鑄造方案」における発想をはじめとした鑄造にかかる技能は、同社において欠かせないものとなっている。

おもしろいのは、できにくいもんができたとき

藤井氏が働く三共合金鑄造所は、多品種・少量生産による鑄造を得意としている。

現在、鑄造の世界においてもコンピューターを用いて鑄型を設計することが多くなっているが、複雑な形状や高熱、腐食、磨耗といった過酷な環境下で使用され、持ちこたえることができる特殊な材質での特注品を多く受ける同社では、しばしば教科書どおりの知識では答えられない鑄造が求められることがある。

「難しい型を作るとき、型づくりで困ったときは、必ず藤井さんに相談しています」と、藤井氏は同社の「鑄造方案」における拠り所だ。

「おもしろいのは、できにくいもんができたとき」そう語る藤井氏は、満面の笑みで楽しそうだ。



鑄込み（いこみ）方も大切

「鑄物は、今日と同じものが、明日も同じように作れるというものではない。」「鑄込み」と呼ばれる工程では、鉄などの金属片を「炉」と言われる釜の中でドロドロに溶かし、それを鑄型に流し込む。1,600度にもなる金属を扱う鑄込みは、それだけでも非常に神経をつかう作業であるが、鑄込み方にも「コツ」が必要。ザッとすばやく流し入れていいものもあれば、ゆっくりと静かに流し入れなければならないものもある。溶かした金属の種類やその日の気温や湿度等、さまざまな条件によって、そのときそのときの判断が必要になる。それには、藤井氏の経験と培ってきた感覚がものをいう。

やり直しはきかない、一回で作らないと

特注の鑄造の場合、同社では1個単位から注文を受けるため、鑄型の造型も、機械ではなく「手込め」と呼ばれる昔ながらの手作りの方法で造型される。「1個のものは、1回で作らないと。やり直しはきかない。」と藤井氏。「砂を固めて行く工程で、手に伝わる感覚は大事。「ヘラ」は常に持ち歩いています。」鑄型となる砂を押し固め、「ヘラ」と呼ばれる道具を駆使して形を整え、補正していく。「ヘラ」そのものを自分で作ってしまうこともあるそうだ。つねに一発OKが求められる現場の最前線で活躍してきた同氏が蓄積したノウハウは、同社の比類ない高品質な製品づくりに、大きく貢献している。

若い子に興味をもってもらえたら嬉しい

同社は、工場見学や鑄物教室も積極的に受け入れている。学生の奇抜で斬新なデザインのオーダーにも、藤井氏の技能は欠かせない。同氏は、仕事においては、聞けば教えてくれるが、基本は「見て覚える」の背中での語るタイプだとか。そんな同氏だが、若者からは「丁寧で教え方が上手」。「おもしろい」鑄物の世界に興味をもってもらいたい。そんな藤井氏の思いがあふれている。

長年の経験と感覚が大事。



<鑄物一筋50年>

「お客様の要望にオーダーメイドで答える」多品種・少量生産を強みとし、世界初の凍結鑄造システムを構築するなど、常に新たな研究に取り組む株式会社三共合金鑄造所において、製造部・技能長を務める藤井常雄氏。鑄物工として、50年以上にわたり同社の技術を支えている藤井氏。鑄型の造型・補正及び鑄込み作業等における藤井氏の卓越した技術と知見は、同社にとって欠かすことができない。

■所属企業概要

株式会社三共合金鑄造所 事業内容: 鑄鋼・鑄鉄・非鉄金属・各鑄物製造・機械加工・組立
〒555-0001 大阪市西淀川区佃5丁目10-7 TEL:06-6472-3571/FAX:06-6472-3573
http://www.ksh-sankyo.com/

